

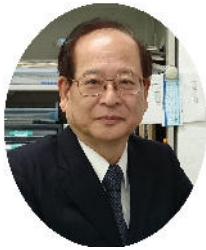


病院経営とパリアン (13)

医療法人パリアン理事長
川越 厚

病院再建のために具体的に行ったこと

2. 緩和ケア病棟 (PCU) の開設〈中篇〉



資金難で PCU の開設を私自身なかば諦めかけていた頃、思いもかけない幸運が舞い込んだ。看護師の射場典子さんが関

わり、ご自宅で看取った太田さんという 50 歳代後半女性のご遺族から、「PCU 開設のために役立ててほしい」と 1000 万円の寄付があったのである。この寄付によって、PCU 開設計画が現実のものとなった。

先に立つ者は夢を語れ！すると、その夢に惹かれた人が自然と集まってくる

私には「賛育会病院を建て直す」という重要な任務を託されていたが、私自身は「理想のホスピスを作る」という個人的な夢をも合わせ持っていた。PCU の開設は個人的な夢であると同時に、瀕死状態の病院を救う切り札である。このように私は信じていた。

資金確保の問題とは別に、PCU 開設のために優秀な人材を確保しなければならない。PCU 開設に必ずつきまとう厄介な問題であるが、幸いなことに、賛病 PCU 開設にあたっては大きな障害とならなかった。私の講演を聞き、著書を読み、私の夢に共感し、賛育会病院に就職してくれた看護師や医師が、少なからずいたからである。射場さんもその一人だった。

射場さんに私が初めて出会ったのは、ある講演会（たしか場所は武蔵境）の席だ。講演終了後、「賛育会病院へ就職をして先生の力になりたい」と彼女が言ってくれたのである。正直な話、その時、私は射場さんのことをほとんど知らなかった。しかし、そのような志を持つ看護師に出会え、私は大いに感激した。

彼女は看護学の博士号を持った看護師だ。当時の賛育会病院には博士号を持つ看護師はおろか、看護学士号を持つ看護師すらごく少数で、院内の多くは准看護師であった。

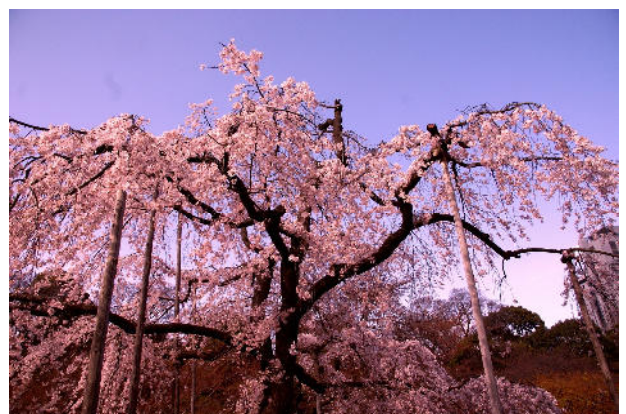
博士号を持つとはいえ、彼女は新参者。その彼女

が新しい企画に取り組むわけである。大変な苦勞を背負い、忍耐したことは想像に難くない。さらに、PCU 開設の目途が立たないのである。私は彼女に対して、本当に申し訳ないと思った。

PCU はダメでも、彼女には高い専門性をいかした仕事をしてもらいたいと考えていた私は、新たな事業として、外来がん患者の相談支援に取り組んでもらうことにした。しかし、話はなにせ 20 年近く前のこと。肝心の診療科の医師の協力を得ることができず、中途半端な形になってしまった。時代が早すぎたのである。いずれにしろ彼女には、結果的に大きな負担を強い迷惑をかけることになった。この場を借りて、お詫び申し上げたい。

PCU の開設で壁にぶち当たっていた時、そしていまの仕事の始めたときに深く教えられたことがある。それは、フロントランナーの使命だ。

先に立つ者は常に夢を追い、それを続く者に語り続けなければならない。人を魅了する夢を追いながら走り続ける。これが真のフロントランナーの姿であり、宿命でもある。



ご遺族からの寄付の経緯

資金的な問題で PCU の開設の目途が立たなくなり、私や共鳴者が失望していた頃、射場さんは病院の仕事の続けながら、ボランティアの形で末期がん患者の在宅ケアを行っていた。

< 2 ページへ >

<1ページより>

その訪問看護を受け、ご自宅で亡くなったのが最初に述べた太田さん。太田さんは私たちの窮状を、射場さんから聞いていたようである。あるとき太田さんは、「賛育会病院 PCU 建設のために、寄付をしたい」と娘さんに自分の意思を告げたとのこと。その遺言を娘さんが忠実に実行したわけである。

太田さんご一家は特別裕福というわけでもなく、ごく普通のご家庭である。それにもかかわらず、娘さんはお母さんの遺言を忠実に守り、多額の寄付をしてくださったのだ。太田さんには失礼かもしれないが、マルコ福音書でイエスが語っている、やもめの献金（マルコ伝、12章41-44）の話は私は思い出した。

太田さんと射場さんがいなければ、賛育会病院のPCUの開設はなかっただろう。それどころか、賛育会病院の経営立て直しも難しかったに違いない。



い。PCUの開設がいかに大きな意味を持ったかは、その後のPCUが果たした役割を考えればあきらかだが、その真の意味を理解する人は残念ながら、当時の院内にはほとんどいなかった。

わたしの個人的な夢が叶えられ、託された使命を果たすことができたのは、まさに人知を超えた、上よりの恵があったからだと思う。いまも神の導きと信じ、その恵みを感謝している。

ボランティア紹介

第3回 訪問ボランティア

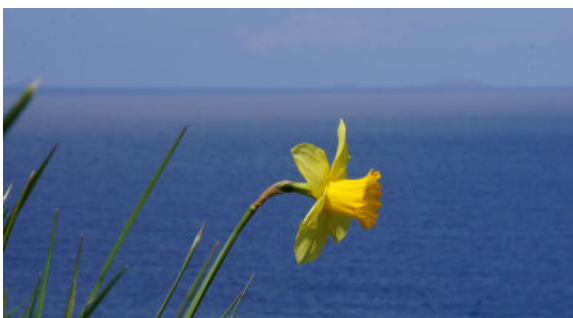
・訪問ミーティング：

毎月1回開催

・主な活動：

ボランティアはパリアンのチーム（医師または看護師）の依頼を受けて、パリアンチームとして患者さん宅に訪問して活動する。最近、サロン・ド・パリアンへの送迎も訪問の活動に加わった。患者さんやご家族に接する活動なので、訪問ボランティアには他のボランティアの方々より下記のような厳しい条件が課せられている。

- ①死に逝く患者さんとそのご家族のケアに適しているかどうか
- ②ボランティア入門講座を受講し、かつ別途行われる訪問研修を修了した方
- ③個人情報保護に関する約束（誓約書）を提出そして、訪問前後の連絡、活動記録票の提出などの約束事もある。



患者さんのベッドサイドで一緒に過ごす約1時間は、患者さんを中心に、患者さんの気持ちに寄り添うことができるように心がけている。ある時は患者さんの思い出話に耳を傾けたり、昨晚見たテレビドラマの話をしたり、好きな演歌を一緒に口ずさんだり、ハーモニカが得意なボランティアは患者さんと合奏したりして、楽しい時間を過ごしている。散歩に出かけることもある。また、看護師と同行する時はケアのお手伝いをする。

また看護師の許可があれば、マッサージをしたり、足浴をしたりすることもある。このようにして、ボランティアが来ることを楽しみにしてもらえたり、また、私たちも訪問することが楽しみになってくる。

最近、患者さんの心のケアに、患者さん思い出話を聞いて、小冊子にまとめ、患者さんにお渡しする“聞き書き”を取り入れたらどうかという意見がでている。聞き書き終了後には、聞き書きで深まった患者さんとの信頼関係で無理なく訪問に移行できるのではないかと期待している。

しかし、パリアンの患者さんは、いのちの時間が限られていることが多い。だからこそ、大事な時間を少しでも気持ちよく過ごしていただけるように、訪問ボランティアの活動があると思う。

患者さんのためには、急な訪問依頼にも対応することが求められている。そのためには訪問の体制を充実させていかなければならない。訪問ボランティアの働きを多くの方に知っていただき、訪問ボランティア希望者が増えることを願っている。

3月19日

27年度がんサロン SAKURA 第4回を開催

NPO 法人すみだ在宅ホスピス緩和ケア連絡会あこもが墨田区より委託されている「墨田区在宅緩和ケア事業」の一環として、3月19日に27年度がんサロン SAKURA 第4回が、本所地域プラザ BIGSHIP にて開催されました。このNPO 法人あこもでは、在宅ホスピス緩和ケアが地域に広がるために、パリアンのスタッフ数名が地域の専門職や区民の方と共に活動しています。

今回のがんサロン SAKURA では、がん患者さん・ご家族の語り合いの時間の後に、東大オーケストラ OG/OG 有志の方による木管五重奏を聴いていただきました。また、パリアンのボランティアさんの協力により手作りのお菓子をいただきながらのティータイムの時間も楽しんでいただきました。

参加者の方からは「同じ病気に向き合っている方とお話して、その心意気に感動した」「足を運べる場所があることは嬉しいこと」などのご感想をいただきました。参加して下さった皆様、開催に協力して下さった皆様に感謝いたします。



東大 OG・OB 楽団木管五重奏に聞き惚れる参加者

平成 27 年度の締め括りを飾る、第 4 回目のがんサロン SAKURA に出席しました。会場へ向かう途中、前回参加の方から「お変わりありませんか」と声を掛けられ、互いの近況を報告しながらの道中となりました。又、この会を通じて知り合った別の患者さんからは「今回は体調が万全でないので残念ながら欠席」といったメールを事前に受け取ってもしました。会場に着いてからも、初めてお会いする方に混じって「お久しぶり」と声を掛けあう懐かしいお顔が次々に現れ、4 回目ともなると同窓会と銘打っているだけあり、穏やかな気持ちで席につくことが出来ました。

プログラム 1 番目の語り合いは 2 班に分かれましたが、私の参加した班では、患者自身の抱えている問題や、家族に降りかかったトラブルなど、銘々の現状を率直に話しました。限られた時間の為、互い状況を伝えるに留まりましたが、赤の他人同士が心の内まで吐露することが出来る場が醸成

されているのは不思議なことだと思います。

次のプログラム“小さな音楽会”は、東大オーケストラ OG・OB 有志による木管五重奏を楽しみました。この演奏が実現したのももとはと言えば、スタッフ・ボランティアの方の縁故によるもので、このサロンが様々な人達の善意によって成り立っていることの象徴のような時間でした。

最後のプログラム・ティータイムでは更にその善意が、イチゴのパンナコッタとなって現れました。前の晩にボランティアの方が仕込んで下さったデザートは、参加者の気持ちを和ませる美味

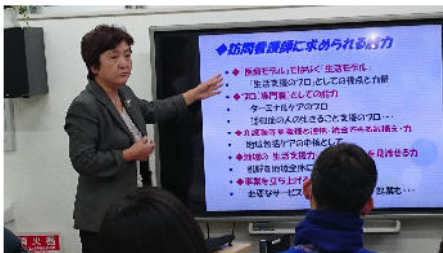
しさで、その場の語らいを更に円滑に進ませました。

この病気になって、色々と情報交換することが増えましたが、こういったサロンの開催機会は、まだまだ限定されているようです。自分がどれほど恵まれているか実感すると共に、スタッフはじめ患者同士、その家族など多くの人の善意を改めて感じる場となりました。

がんサロン(SAKURA)に参加して 芝田葉子

「地域包括ケアと訪問看護の役割」について講演

3月4日 講師：全国訪問看護事業協会事務局長・宮崎和加子先生



講師の宮崎和加子先生

2月26日に引き続き、全国訪問看護事業協会事務局長・宮崎和加子先生をお迎えして、「2016年度版 訪問看護 来た道・往く道～訪問看護の未来を考えよう～」第2回講演が、3月4日午後6時30分からパリアン1階研修室で「地域包括ケアと訪問看護の役割」というテーマで開催された。

地域包括ケアシステムの構築が進むと、訪問看護と小規模多機能居宅介護を組み合わせた複合型サービスなど多様な取り組みが必要になってくるという。

ご本人の在宅での豊かな生活の継続を叶えるためには、看護職や介護職は“ご本人が自分の力で生きること”に対しての支援力（地域内支援力）が大事であるとともに、訪問看護師として、“専門職の能力”だけでなく、「生活支援のプロ」としての視点と力量が求められると宮崎先生はおっしゃっている。訪問看護師の活躍の場はますます広がるが、それと共に役割や求められる能力も大きくなっていくようだ。

トピックス TOPIX トピックス

●1月の続編が3月24日にテレビ朝日で放映



番組の一場面

1月28日(木)の羽鳥慎一モーニングショーで「病院で死ぬことは、これからは当たり前なのだろうか」という番組を放映したところ、視聴者からの反響や問い合わせが多数あったため、テレビ朝日では「自宅で最期を迎える」という選択を家族はどのように受け止めるのか」というテーマで3月24日(木)、続編が放映された。

在宅を希望されている方のご家族は「一緒にいられることがすごくいい」とおっしゃっており、また、在宅で看取られた遺族の方は「自宅に戻ったら、それまでの日常と変わらない日々を過ごせた」と語っていらしたのが印象的だった。

●正力厚生会からの活動助成が決定

昨年12月に公益財団法人大和証券福祉財団からボ

ランティアグループ・パリアンへの活動助成が決定し、助成金授与式が行われた(右の写真)。

また、公益財団法人正力厚生会からの2016年度の活動助成が決定された。

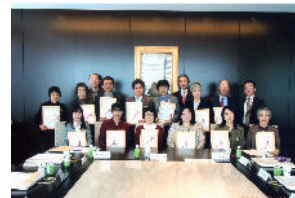
これらの助成を受けて、2016年度のボランティアグループ・パリアンの活動はますます活発になることだろう。

●サロン・ド・パリアンでお茶会

3月25日のサロン・ド・パリアンは、芝田葉子さんのお点前でお茶の風情を味わった。ボランティアが作った和菓子を食べながら、抹茶を初めていただいた参加者は「お茶がこんなにおいしいなんて!」と驚いていた。

●パリアン2016年度の目標が発表される

パリアンの2016年度の目標と具体的行動目標が発表された。詳細は5月号に掲載する。



大和証券福祉財団の助成金贈呈式の記念写真

パリアン・スタッフの講演予定(確定分)

講演者	開催日	講演会等	演題	会場
川越厚	5/8	HIP 研究会平成28年度総会&特別講演	「ひとり暮らしのがん患者の疼痛管理」	星薬科大学 百年記念館 (品川区)
川越博美	5/9	ふれあい看護フォーラム2016 (主催:愛知県看護協会)	「老」「病」とともに我が家で...あなたと家族の生活を守る訪問看護」	愛知県産業労働センター ウィンクあいち (名古屋市)
川越厚 他	5/14	第4回パリアン公開講演会 (主催:ボランティアグループパリアン)	「家で最期を過ごすために」 “家で看取った25年の経験から” 他	本所地域プラザ BIG SHIP 4階多目的ホール (墨田区)
川越厚	5/18	沖縄県在宅緩和医療研究会講演会	相談外来での問題症例とその対処	沖縄医師会館 (沖縄県南風原町)
川越厚	7/3	全国在宅療養支援診療所連絡会 第4回全国大会セミナー	「在宅緩和ケアにおけるモルヒネ持続皮下注射」	愛知県産業労働センター ウィンクあいち

パリアンのフェイスブック (<https://www.facebook.com/hospice.pallium>) でも講演予定を随時ご紹介しています。

4月のボランティア活動予定

- ・ボランティアの集い: 4月16日(土) 午前10時30分~
- ・訪問ボランティア:(訪問ミティング) 4月8日(金) 午後2時30分~
- ・サロン・ド・パリアン: 4月1日、8日、15日、22日
- ・命日カードボランティア: 4月21日(木) 午前10時~
- ・手作りボランティア: 4月4日(月) 午後1時~
- ・事務&聞き書きボランティア: 4月16日(土) 午後1時~



4月の花(芝田さん提供)

編集後記

ボランティアグループ・パリアンは2001年度に誕生して、今年15周年を迎える。今まで訪問、サロン・ド・パリアン、命日カード、メモルの集い、手作り、事務の各グループは、パリアンのチームの一員として、患者さんおよびご家族、ご遺族のために活動してきた。昨年度から公開講演会やサロン・ド・パリアンで「家で最期を迎えたいと願っている地域のがん患者さんやご家族」との関わりも増やしてきた◆2016年度は昨年度より更に地域の方々との結びつきを密にして、サロン・ド・パリアンへの参加を積極的に勧誘したり、ボランティア主催の公開講演会を開催して、在宅ホスピスケアについての広報活動を一層進めていきたいと思う◆そのために、我々ボランティアはパリアンボランティアとしての自覚をもって、目的を遂行するための勉強をして自らがステップアップする必要があると思う。特に患者さんやご家族に関わるボランティアは、ケアに関する適性や個人情報守秘義務が求められている◆15周年を迎えるにあたり、気持ちを新たにパリアンボランティアとしての使命を果たしていこうではありませんか。